

# 経営比較分析表

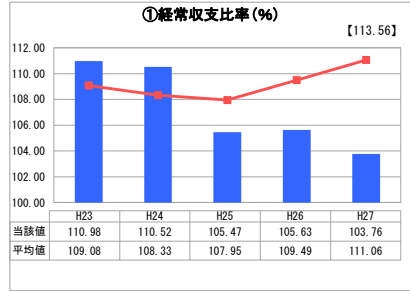
長崎県 対馬市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A7
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金 (円)
-	75.39	36.49	3,880

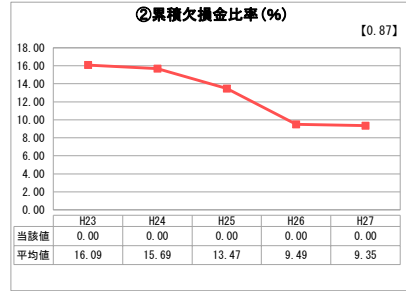
人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
32,523	708.63	45.90
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km <sup>2</sup> )	給水人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
11,727	15.00	781.80

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
【	平成27年度全国平均

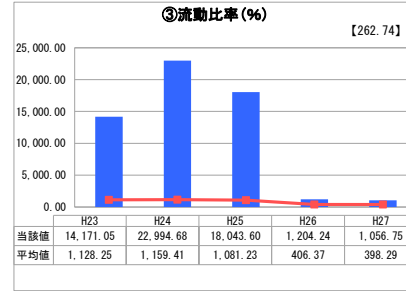
## 1. 経営の健全性・効率性



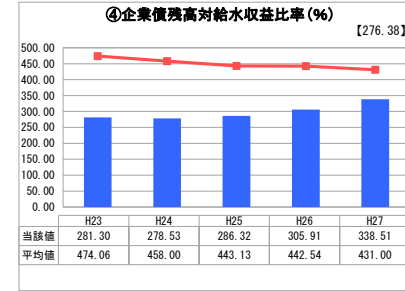
「経常損益」



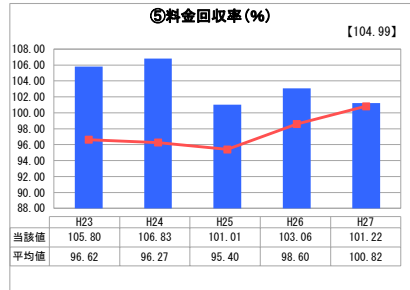
「累積欠損」



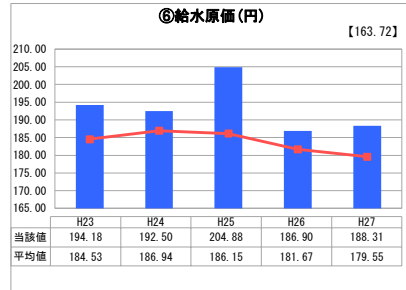
「支払能力」



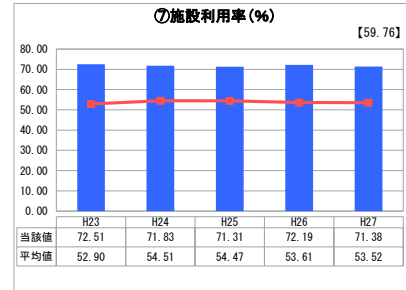
「債務残高」



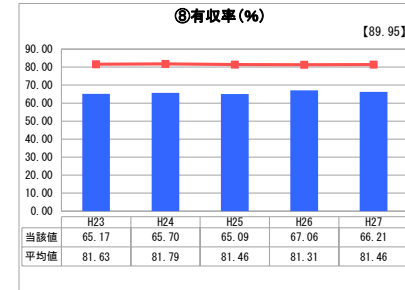
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

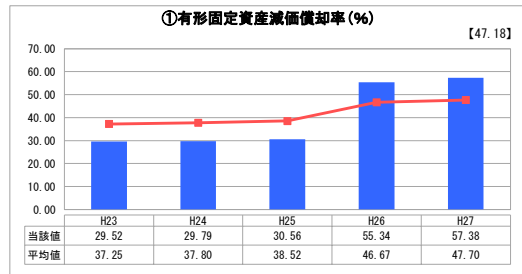


「施設の効率性」

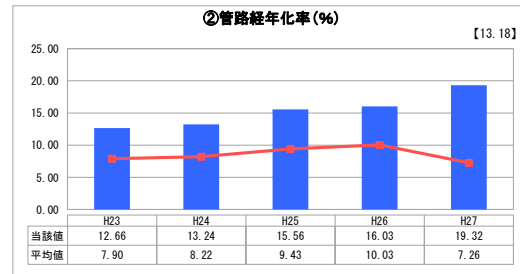


「供給した配水量の効率性」

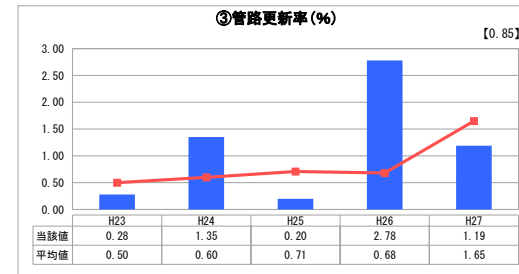
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は平均値を下回っているものの100%を上回っており、経営状況は比較的健全な水準にあるといえる。  
 ②流動比率は全国平均値、類似団体平均値を大きく上回り、概ね良好である。  
 ③流動比率は全国平均値、類似団体平均値よりも良好な数値となっている。しかし、給水収益に抑えて企業債残高が低く抑えられているということは、必要な管路の更新を先送りしているともいえるため、投資規模が適正ではない可能性がある。  
 ④企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均値よりも良好な数値となっている。しかし、給水収益に抑えて企業債残高が低く抑えられているということは、必要な管路の更新を先送りしているともいえるため、投資規模が適正ではない可能性がある。  
 ⑤料金回収率は、100%を上回っている状況であり、今後もこの水準を維持していく必要がある。  
 ⑥給水原価は類似団体平均値を上回っており、コスト改善が必要である。  
 ⑦施設利用率は平均値を上回る稼働率になっているが、有収率は類似団体平均値よりも低い60%台であることから、漏水等の要因により配水量が増加したため稼働率が高くなっている可能性がある。  
 ⑧有収率については平均値を大きく下回っており、収益につながっていない状況である。今後は漏水調査を行うなど有収率の向上に努めていきたい。

### 2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率及び管路経年経過率については平均値よりも高い水準となっている。全体的に施設の老朽化が進んでおり、大雨や寒波の際には漏水する管路が多いため、今後は長期的視点に立った維持管理・更新計画を策定し、年次的に管路の更新を進めていく必要がある。

### 全体総括

対馬市水道事業においては、人口の減少に加え節水型社会の定着による水需要の減少、施設の老朽化や、多様化する市民ニーズに応じた良質なサービスの提供、事業経営をめぐる内外の動きなど事業をとりまく課題が山積みとなっている。  
 特に施設の老朽化については、国庫補助制度の見直しにより、財源の確保が難しくなることが予想されるため、限られた財源のなかでこれらの課題に対応していくために、本年度対馬市水道事業経営戦略を策定し、経営基盤の強化と財政マネジメントの向上に取り組みたい。  
 また、水道事業単体では比較的健全な経営状態であるが、平成29年度から簡易水道事業と統合するため、今後の経営については十分留意する必要がある。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。